

講義名	オ)パーソナリティ論		
担当教員	綱直 優子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>私たちは、個人の考え方や行動の仕方に一貫した傾向を見出し、「Aさんは社交的な人だ」、とか「Bさんは神経質な人だ」などと表現する。このように、個人の思考や行動を特徴づける一貫した傾向をパーソナリティといふ。</p> <p>本講座では、パーソナリティがどのように形成され、どのように我々の社会生活に影響を与えるのかについて学んでいく。また、我々のパーソナリティを客観的に理解していくために、どのような方法があるのかを学んでいく。講座の中では、実際に自己のパーソナリティを測定し、その結果についても分析していくことで、自己理解を深めていく。</p>			

到達目標			
<p>パーソナリティがどのように形成されるかを理解することができるようになる。</p> <p>パーソナリティをどのように測定するかを理解することができるようになる。</p> <p>パーソナリティにはどのような側面があるかを理解することができるようになる。</p> <p>パーソナリティが我々の社会生活に与える影響を理解することができるようになる。</p> <p>自分のパーソナリティ特徴について客観的に理解することができるようになる。</p>			

提出課題			
<p>毎回の授業でレスポンスによる課題提出がある。</p> <p>授業動画内でレスポンス番号を表示する。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>次回以降の動画もしくは講義連絡による配付資料においてフィードバックを行う。</p>			

評価の基準			
<p>毎授業の課題（40％）</p> <p>中間テストもしくはレポートと最終テスト（60％）</p> <p>中間テスト（もしくはレポート）と最終テストの一つでも欠けた場合は、単位を取得することができない。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>毎回の授業で小課題もしくは小テストが提出（レスポンス）されるが、その課題は提出期限内に提出することによってその授業回の出席となる。</p> <p>この授業は、月曜1限開講の「対）パーソナリティ論」の授業を加工したものを視聴するという形式で行われる。従って、この授業教材については、授業終了後以降から授業翌日までに、講義連絡にて掲示するので、必ず確認すること。</p>			

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献				
<p>・プリントを適宜配付する</p> <p>【参考文献】</p> <p>・梅本春孝・大山正 監修（2003）「性格心理学への招待」（改訂版）サイエンス社</p> <p>・清水弘司（1996）「初めて触れる性格心理学」サイエンス社</p>				

授業計画				
<p>第1回：パーソナリティとは：性格と人格</p> <p>第2回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ</p> <p>第3回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ</p> <p>第4回：類型論と特性論：血液型と体型</p> <p>第5回：類型論と特性論：特性論の種類</p> <p>第6回：類型論と特性論：性格の因子数（性格にはいくつの側面があるのか？）</p> <p>第7回：パーソナリティの理論と実際：5因子性格検査</p> <p>第8回：パーソナリティの理論と実際：Y-G性格検査</p> <p>第9回：パーソナリティの理論と実際：作業検査</p> <p>第10回：パーソナリティの理論と実際：性格検査まとめ</p> <p>第11回：対人魅力：好まれる人と嫌われる人</p> <p>第12回：対人魅力：類似説と相補説</p> <p>第13回：対人コミュニケーション</p> <p>第14回：自己意識と自尊心</p> <p>第15回：健康とパーソナリティ</p>				

授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>自らのテーマに沿って下記の予習、復習をすること。</p> <p>予習：シラバスに記載している参考文献あるいは、自分で読みやすい「性格心理学」、「パーソナリティ心理学」などの書籍を選び、次回の授業のテーマに関連した箇所を読み、重要語句をノートに書きだし、語句の説明をまとめること（予習時間：1.5時間）</p> <p>復習：授業内で示されたキーワードを理解できているかを確認し、理解できていない場合は、参考文献を活用し、調べなおすこと。また、配付資料に質問問題が用意されている場合があるが、その部分について、再度解答してみる（復習時間：2.5時間）。</p>				

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>到達目標の、を達成することで、「人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測すること」に貢献することができる。また到達目標のを達成することで、「日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」に貢献することができる。</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
<p>授業の内容によっては、クリッカー（Respon）を利用する場合がある。</p>				

実務経験の有無及び活用				
<p>「実務経験あり」授業内で行ういくつかのパーソナリティ検査については、病院臨床で人格査定で活用している。</p>				

備考				